NIIにおけるアーカイブへの取り組み

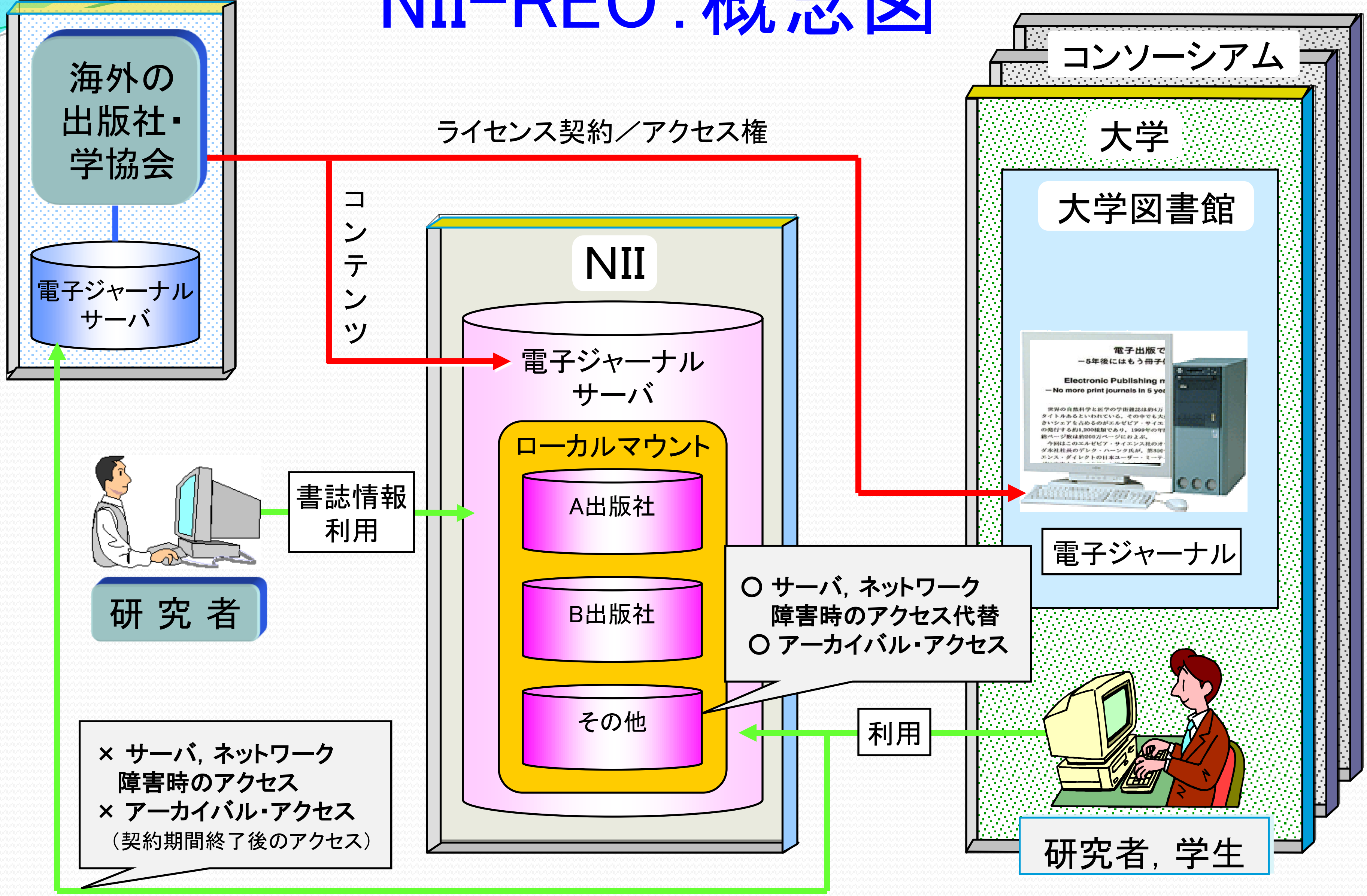
NII オープンハウス2009ワークショップ
「電子リソースアーカイブの展望」
6月12日(金)　11:00～12:30

国立情報学研究所学術基盤推進部
学術コンテンツ課図書館連携チーム
細川　聖二

NII-REO

- NII電子ジャーナルリポジトリ（2003-）（NII-REO : **NII R**epository of **E**lectronic journals and **O**nline publications ）
  - 複数の大学等やコンソーシアムが購読契約した電子ジャーナルのコンテンツを統合的に搭載し、安定的・継続的な提供を行うサービス
  - 安定的利用local hostingと恒久的保存long term preservationを実現

NII-REO：概念図



海外の
出版社・
学協会
電子ジャーナル
サーバ
ライセンス契約／アクセス権
コンテンツ
NII
電子ジャーナル
サーバ
ローカルマウント
A出版社
B出版社
その他
コンソーシアム
大学
大学図書館
電子ジャーナル
研 究 者
書誌情報
利用
○ サーバ，ネットワーク
障害時のアクセス代替
○ アーカイバル・アクセス
利用
研究者，学生
× サーバ，ネットワーク
障害時のアクセス
× アーカイバル・アクセス
（契約期間終了後のアクセス）

NII-REO　特徴と収録条件

- 特徴
  - ライトアーカイブ（契約機関は常時アクセス可能）
  - メタデータ（書誌・抄録）は無償一般公開
  - 複数出版社の電子ジャーナルの横断検索が可能
- 収録条件
  - コンソーシアムからの依頼と出版社からの許諾に基づき搭載
  - REOへのアーカイブ搭載は、コンソーシアムと出版社間で交渉
  - 出版社から無償でコンテンツ提供

NII-REO：背景と経緯

平成14年3月	科学技術・学術審議会『学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）』 国立情報学研究所への期待－電子ジャーナルのアーカイブ機能の提供
平成15年1年	サーバシステムの導入
平成15年2月	東大，東工大による試験利用
平成15年7月	Kluwerコンテンツ，OUPコンテンツの搭載，トライアル利用の開始
平成15年11月	IEEE/CSコンテンツの搭載
平成16年7月	機能改善，IEEE/CS Proceedingsの搭載
平成17年6月	OUP（1998年-2000年）バックデータの搭載
平成18年3月	Springer（1847年-1996年）バックデータの搭載
平成18年6月	OUP（1849年-1995年）バックデータの搭載
平成20年12月	OUP（1996年-1997年）バックデータの搭載

NII-REO：収録状況

出版社	タイトル数	論文数	収録年	本文公開機関数	備考
IEEE Computer Society	約29誌*	約22万論文	1988-2009	3	*Conference Proceedings（約150種）も収録
Kluwer Online	約500誌	約35万論文	(1997)-2005	76	Springer社と合併のため2005年で凍結
Oxford University Press	約150誌	約85万論文	1849-2003**	115	**1998-2003年はアカデミック・ナショナル・サイト・ライセンス
Springer	約1,100誌	約209万論文	1847-1996	152	
計	約1,778誌	約351万論文			

（平成21年5月末現在）

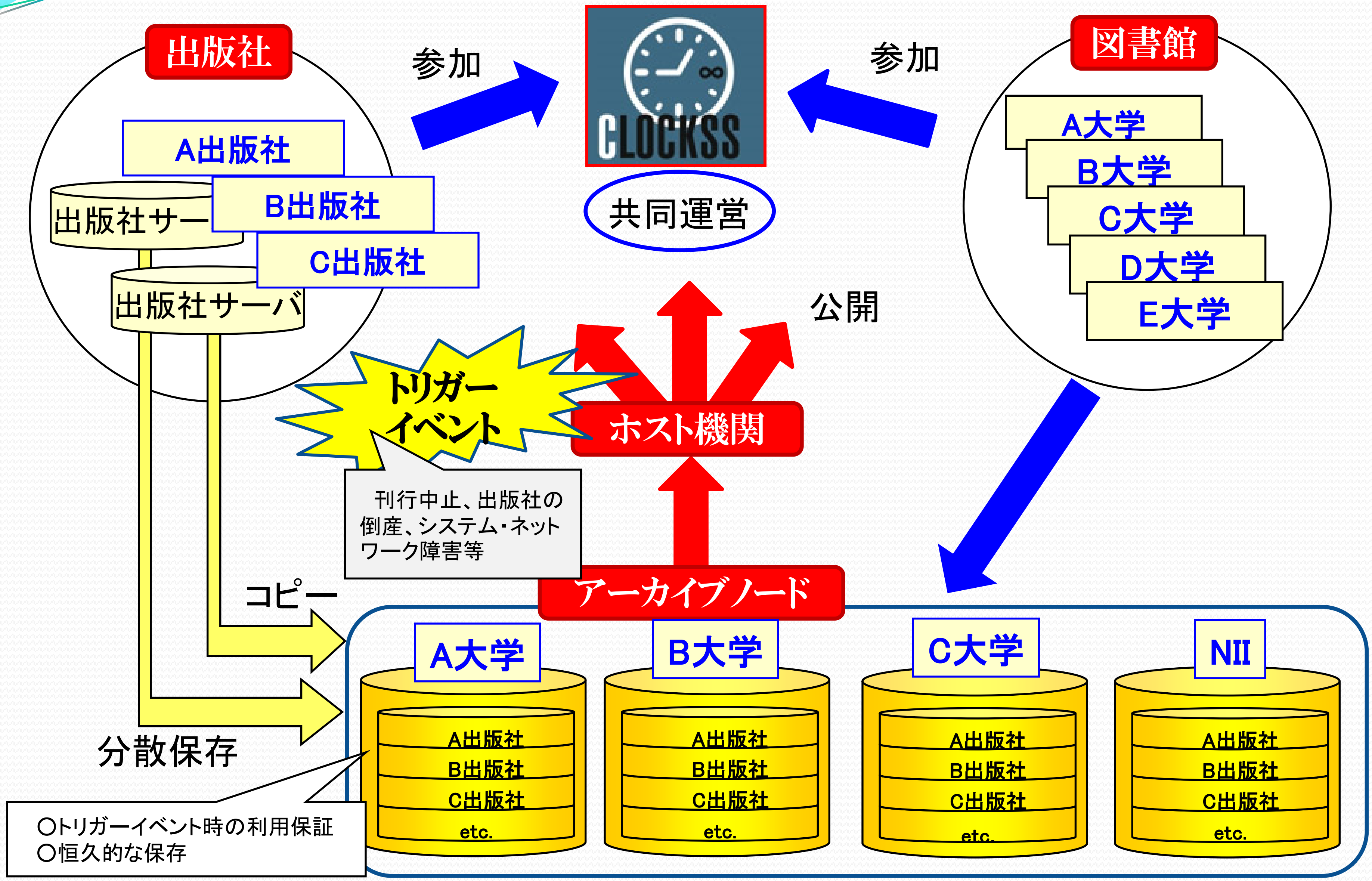
NII-REOをめぐる課題とこれからの展開

- 収録出版社を増やすには
  →アーカイブ対象・方針の見直し
  - カレント or バックファイル
  - ライトアーカイブ or ダークアーカイブ
- ジャーナル以外の電子リソースの出現
  →アーカイブ対象の拡大
  - 電子ジャーナル→大型デジタルコレクション
  - STM（科学・技術・医学）→人文社会科学
- 日本だけのアーカイブの限界
  →アーカイブの国際連携
  - 世界規模のアーカイブプロジェクトとの協働も視野に

CLOCKSSとの連携協力

- CLOCKSSとは
  - スタンフォード大学のプロジェクトLOCKSS技術を利用した大規模保存プロジェクト
  - 2006年から2年間は試行プロジェクト，2008年からは正式プロジェクトへ
  - 図書館等11機関及び12出版社で運営（2009年5月現在）
  - 国際的かつ地理的に分散したダークアーカイブ方式
  - 2010年までに世界に15のアーカイブノードを設置予定
  - トリガーイベントの実例
    - 2008年1月，SAGE Publicationsの“Graft”出版中止時にCLOCKSSのアーカイブから公開

CLOCKSSー概念図



何故、CLOCKSSなのか？

- CLOCKSSの概要
  - 別スライド（「資料2-2」）参照
- CLOCKSS参画のいくつかの要因
  - スタンフォード大学からの呼びかけ
  - アーカイブノードとしての条件:セキュアなNW環境とサーバ運用実績
  - コストパフォーマンス：オープンソースのソフトウェアの活用
  - 分散アーカイブ：アジア(日本）でのコンテンツの確保
  - 図書館と出版社の共同運営：ガバナンスへの積極的な関与
  - 国際貢献：日本の図書館を代表して
  - NII-REOの運用実績：アーカイブ構築・運用のノウハウをGive and Take

本日の結論(もどき)

- NII-REO or CLOCKSS
  - 当面は両方運用
  - 人文社会系電子コレクションの整備→優先順位等整備計画を検討
  - 電子ジャーナル、電子コレクション含めた電子リソース全体のアーカイブ方針・戦略の練り直し→大学図書館、NDL、その他関連機関含めた中期的課題
- 次回は図書館総合展フォーラムで（11/11）
  - CLOCKSSアーカイブノードとしての稼働報告
  - 海外のアーカイブプロジェクトの実態
  - 出版社側のホンネ
  - 大学図書館側のアクション
  - etc